



代表理事組合長
山内 清久

平素は、めぐみの農業協同組合に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、農業・農村・JAを取り巻く環境は、先行きが不透明な貿易交渉や農業政策の大きな転換、農業者の高齢化による担い手不足、管内人口の減少、出口の見えないマイナス金利政策等、依然厳しい環境下におかれております。

しかしながら、平成28年度は、第13回通常総代会でご承認をいただきました3カ年計画の基本方針『創意工夫による自己改革の実施』を実現させるため、農業所得増大へ向けた取り組みを強化するとともに、地域の活性化に向けた協同活動の展開と、これらの実践を支えるために不可欠となる経営基盤の確立に注力して参りました。

また、11月に国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に「協同組合」が登録されました。国際社会から協同組合の理念や必要性が高い評価を受けたことは大変喜ばしいところですが、国内での報道があまりされなかったことは誠に残念であります。JA自らが協同組合の一員である誇りと責任を再認識し、自己改革をさらにすすめると共に、JAの総合力を活かした事業展開による農業・地域振興の必要性和使命感をより強くしたところでもありました。

こうしたなか、組合運営につきましては、5億3千万円余りの事業利益を第14回通常総代会に報告することができました。これはひとえに組合員・利用者の皆様のご支援ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

平成29年度は、3カ年計画の中間年となります。若手職員を中心に職員自らで作り上げた「未来を見据え、今、考え行動しよう!!」この職員スローガンを基本に、一人ひとりの職員が一步踏み出した活動を展開し、迅速にJAの自己改革を実践して参る所存でありますので、なお一層のご支援を心よりお願い申し上げます。

おわりに、組合員・地域の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

平成29年7月